



嬉泉の新聞 第62号 2007年(平成19年)3月発行(年3回発行)

発行所=社会福祉法人嬉泉

東京都世田谷区船橋1-30-9(〒156-0055) TEL 03-3426-2323

<http://www.kisenfukushi.com> E-mail:kisen@kisenfukushi.com

発行人=石井哲夫 編集人=友田 篤

## 社会福祉は『冬の時代』に入ったか?

助休暇村協会理事長 炭 谷 茂

「最近いい人が来てくれなくなってしまった」と社会福祉施設を経営している人が憂鬱そうに話してくれた。施設職員の欠員を補うため新卒を募集したが、これと思って目を付けた学生は、一般企業に逃げられてしまった。給料では勝負できない。昇進では社会福祉施設は上がつかえている。最近の学生は、目ざとく将来を予測して行動する。

福祉系大学や福祉専門学校の志願者も減っている。2, 3年前は社会福祉を勉強すれば就職間違いないと相応の志願者があった。しかし、近年景気が上向き、企業の雇用が改善して来ると、福祉系の学校は、相対的に魅力を失い始めた。そう言えばバブル経済の時もそうだった。3K職場と敬遠された。

件の社会福祉経営者の憂鬱の原因は、もっとある。これまで国の補助金が出ていた事業が、三位一体改革で一般財源化された。市では国庫補助金の廃止と同時に事業を止めてしまった。実施の可否は、市の自主的な判断に委ねるのが三位一体改革の狙いであるので、仕方がないとは割り切れない。本当に十分検討された結果なのか。この事業に頼ってきた障害者が沢山いるのに。

福祉サービスの利用者からも同様な嘆きが聞かれる。利用料金が高くなったりとか、長く利用していたサービスが突然廃止されたとか。

どうも社会福祉は、「冬の時代」に入りつつある。景気循環にもよるだろう。小さい政府論から財政支出が抑制され始めたことにもよるのだ

ろう。支出額の大きい社会福祉は、削減対象から免れない。地方分権化も理想どおりには行かず、社会福祉には短期的にはマイナス面が直撃する。

逆に社会福祉の必要性は、一層大きくなっている。障害児・者問題や高齢問題は質量とも急増している。さらに自殺、孤独死、薬物中毒、児童虐待、不登校、引きこもり、ニート、いじめ、DV、中国残留孤児、在日外国人、刑余者など従来社会福祉では重視されて来なかった問題が山積している。社会福祉を冬の時代に入らせる訳にはいかないのである。しかし、行動しないとしまいに氷河期に入りかねない。

ではどうすべきか。私は、第一に社会福祉の理念とるべき政策体系を再確認し、広く社会に訴え直さなければならないと思う。人間として尊厳ある人生と生活を送ることを支援するための社会福祉は、誰にとっても優先的に必要なことである。今日のニーズに合致するように従来の福祉サービスに加え、仕事、教育、住まい、環境、芸術、コミュニケーションなどを社会福祉分野にもっと取り込まなければならない。これは社会福祉に従事する人の意欲も向上させるだろう。

第二は、社会福祉分野に障害者、高齢者も含めたあらゆる住民の積極的な参加を得ることである。これによって社会福祉への理解の輪が広がる。政治の世界での大きな力になる。政治は数がものを言う。社会福祉政策の発展に繋がっていくだろう。

# 社会福祉援助論

石井 哲夫

- その25 -

## 社会福祉最前線からの訴え その一

### 新たな社会運動の展開を望む

かつて社会福祉の関係者たちが社会運動を行ってきたが、その誰もが今日のような社会を考えていなかつたと思っている。政治家にしても行政にしてもまた研究者にしても、當時それそれがよかれと考えてきた社会の進歩は何であったかと思つてしまつ。

誰もが、自問自答しながら理想とする善なるものを目指していったに違ひない。にもかかわらず、今日の個人主義、拜金主義という傾向をもたらしてきた原因が分からぬ。そして、それだけに、長らく障害者福祉の現場という社会最前線において、社会的共生を説くむなしさを感じるものである。

特にひどくなつたと思われることは、人の命を軽視する事件や、肉親による殺人がマスコミによって、目につくことである。社会福祉の最前

線にあって、人の命やその人生の歩みを大事に考えているものの一人として、自分の目指す社会が現実の社会との間で隔たりがあることに気づき、絶望感に襲われてしまうことがしばしばである。私が関わってきた自閉症という障害への思いや、保育という子育ての補完に関して気を入れてきたことに矛盾はなかつたと思つている。前者は、脳機能の障害による親との愛着関係の形成の遅れによる人間関係の発達支援であり、後者は、認可保育所という社会的保育の核となる存在を重視することであつて、いずれも人の社会で生きていく歩みを支援する育成の仕事である。それにもかかわらず、こういう仕事の社会的な理解は薄くなる傾向にあり、ともすれば弱者切り捨てという事態を招きかねない状況におかれている。

社会福祉にしろ、教育にしろ、人間の援助に関しては、その安定した生活の場所が確保出来てゐるかどうか

かを確認しなければならない。今日のように、かなり速いスピードで時代にあつては、迅速な対応の手が打てなければ、あたら多くの人命を失わせるに等しい事態を放置しているという感じを抱いてしまう。

新たな社会運動を行うという姿勢が今の社会福祉の教育者や、社会福祉の現場の職員にどのように浸透していくものであろうか。すべてがそうとは言い切れないが、社会の階層が三元化に向かうなどという客観的な観測があるとしても、この社会の中で、等しく人が人によつて支えられていく社会制度の重要性は言うまでもないことであろう。社会的な仕組みによつてこの糸の形成を図ることが必要と思っている。それが二元化を防ぐことにも繋がるかも知れないし、残酷な非人間的な事件を引きおこす社会傾向の進行を食い止めることがあるかも知れないと思うがどうであろうか。つまり、今は、この人間関係の糸の再生にかけて、社会的支援体制の整備がどのように行われていくものであるかが問われていると考えている。今、相談事業に関わっている者たちが等しく感じている危機感は、家庭の親子間を始めとする家族の連帯の希薄化であり、現実に社会性の発達の遅れをもたらしてほしいのである。

社会福祉援助は、すぐれた対人援助の仕事であり、それは、子どもや障害者、高齢者などを取り巻く環境の人間的な努力そのものなのである。自閉症の子どもに向かつてその乳幼児期から、繰り返し根気よく、働きかけ続けてやつと三十年後に親のことを理解するするなどということが分かった自閉症の子どもに向かつて、そのはるか手前側で、今、まるで反応していかない人に、短期間の関わりだけで、将来の予測を立てて、賢げに「この障害は人の気持ちが通じない障害なのです」と言う人がいる。としたら、本人の心を知るものとして、自閉症の人は無言ながら育てられる気持ちを「見放さないでくれ」と叫びたくなると思うのである。政治も行政もこのよつた状況を理解して、人間としての存在を大切に考える社会改革を進めてほしい。社会福祉の最前線で熱い思いを持つ援助の仕事を励んでいる人たちの思いを知って、新たな社会改革の運動を起こしてほしいのである。

A vertical decorative banner on the right side of the page. It features large, bold, black Japanese characters arranged vertically from bottom to top: '私達の', '世界', '田舎', 'から', and '発信'. To the left of the text, there is a stylized graphic of a sun or firework with radiating lines and a central circular shape.

めばえ学園（知的障害児）

## 通院施設の役割

現在めばえ学園に在籍するお子さんの約3割が保育園または幼稚園への併行通園をしています。そのような形態で利用される方は年々増加しています。数年前に比べると集団生活に適応しやすいお子さんが増えていることがその要因の一つかもしれません。それに伴い、私たちが提供するサービスの形態や療育機関としての役割も少しずつ変化してきました。一つは保育園や幼稚園を母体として利用するお子さんに対し、個別および小集団による療育の場を提供してい

思われる支援ではあるものの専門機関でなければ整えていく個別対応という条件の中で、実際にはソーシャルスキルを含めた生活全般にわたる支援というよりは、コミュニケーション能力の向上に焦点をあてた支援を中心に行ってています。もう一つは保育園や幼稚園との連携を積極的にとるようにしていきます。併行通園先の園に伺い保育場面を見学させてもらう、めばえ学園の療育場面を見てもらう、連絡ノートでお子さんの様子を伝えます。そして幼児期において必要とする、そして児童期において必要となる、その両方の支援を行なうことを目指して活動していきます。

園や幼稚園での集団生活はプラスの面とマイナスの面が作用するようですが、多様な面で驚く程に自然な形で発達が進み、容易に自分を發揮する子どもたちの中で生活をすることは、その刺激を受けて発達が促がされることが多くあります。障害特性や発達段階に応じた支援プログラムを考慮した場合にもお子さんによっては保育園や幼稚園のような集団の場を活用することが有効となる場合があると考えています。しかし、その中で逆にが

自立支援法の施行などを含めて、主  
題的に“育つ”ことが決して容易  
とはいえない現状の中で、子どもた  
ちにとって『療育の場』でありま  
ながら『癒しの場』（子ども一人  
一人の理解に基づいた関わりが実  
践できる場）を提供することが、  
専門施設の重要な役割の一つにな  
るのではないかと認識しています。

稚園でのお子さんの姿や保護者の  
方が希望する就学先の状況等を踏  
まえてお子さんの課題を把握しま  
ます。ここでは、まず保育園や幼

お子さんたちにとつては、めばえ学園は『療育の場』でありながら『癒しの場』としての比重が大きいようです。周りの人たちとコミュニケーションを取つことが好き

の存在を受け入れ認められていて、ことを実感できる場の存在が重要であることを今あらためて感じています。

合うなどの情報交換を行う中で保育園や幼稚園側にお子さんに対する理解をすすめてもらうことを目的とし実施しています。

んぱりすぎてストレスとなることもあります。そのようなお子さんたちに対して、集団の中の“自分”ではなく個である“自分”

ンディを抱えるお子さんにとって、自立支援法の施行などを含めて、主観的に“育つ”ことが決して容易ではない現状の中で、子どもたちにとって『療育の場』であらわながら『癒しの場』（子ども一人一人の理解に基づいた関わりが実践できる場）を提供することが、専門施設の重要な役割の一につながるのではないかと認識しています。（めばえ学園　主任）

# 私たちの しと 赤塚から の発信

## 地域を変えた福祉園の活動

齊藤敦子

赤塚福祉園は、開設してまもなく十五年。この間の地道な取り組みから、地域住民との関わりが多く、地域に開かれた福祉園として親しまれるようになりました。

建設に際しては、地元住民の反対運動もあったと聞いています。どのようなくらいといふ人が出入りするのか分からぬ」と聞いています。

福祉園を理解して安心して受け入れてもらうためには、「利用者が

地域に出て、まずは皆を「知つてもらうこと」が不可欠と考え、地域と様々な形で関わる活動を工夫してきました。今回は、そのいくつかを紹介したいと思います。

まずは、マラソンです。元気な利用者たちは8キロも走るのですが、最初は遠くから見ていた人たちも、汗びっしょりになつて帰つてくるみんなの姿が日々入るのを、「ご苦労さん! 毎日よく頑

張るね!」と自然に声をかけてくれるようになりました。地域を巡るアルミ缶回収でも、七〇㍑の袋にいっぱいのアルミ缶を両手に持つて街中を歩くのですから、これまた「よく頑張るね! アルミ缶集めているなら、家にも取りに来て。」とか、園の玄関前のスペースにご近所の人たちが持つてきてくれるようになりました。

プール活動は、区立の赤塚体育館プールを活用しています。当初は、「障害者の方は、北区にある障害者専用のプールに行つてほしい」とまで言われたものです。今では、「欲しい補助具があつたら予算で買うよ」とまで言って下さるようになりました。

生活支援、給料日外出等で毎日のように通園バスを利用している大型複合店舗のサイドは、以前は通園バスの駐車は迷惑と言われ、嫌な顔をされたものでした。今では、駐車スペースを空けて待つ

ていてくれるようになり、予約がOK。雨の日は、従業員通路も通してもらえるようになりました。

パン活動では、地域販売を始めた五年がたち、その中で生まれた交流は数知れず。その売上金を近くの銀行に預金に行つてるのでありますが、その銀行にも変化が。。。以前、入金票を利用者が記入したところ、「職員が書いてもらわないと困ります。」と言われたことがあります。差別のようにも思いました。差別のようにも思えましたが、実は、銀行員には入金票の数字が読みづらく、でも、障害者に対してそれを指摘してよいのか戸惑つたからだったのです。

「読めなければ受けない」といふ当然の対応をしてしまい、と伝えると逆にびっくりされたものであります。今では普通にやりとりしてくれます。利用者も丁寧に記入しないと受付けてもらえないでの、一生懸命で受理された時は大喜びです。

（更生係長）

していくようになり、予約がOK。雨の日は、従業員通路も通してもらえるようになりました。

パン活動では、地域販売を始めた五年がたち、その中で生まれた

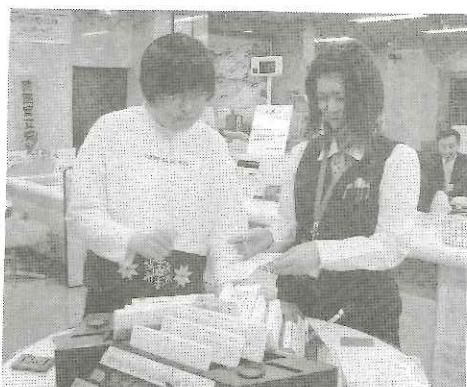
交流は数知れず。その売上金を近くの銀行に預金に行つてるのでありますが、その銀行にも変化が。。。以前、入金票を利用者が記入したところ、「職員が書いてもらわないと困ります。」と言われたことがあります。差別のようにも思いました。差別のようにも思えましたが、実は、銀行員には入金票の数字が読みづらく、でも、障害者に対してそれを指摘してよいのか戸惑つたからだったのです。

「読めなければ受けない」といふ当然の対応をしてしまい、と伝えると逆にびっくりされたものであります。今では普通にやりとりしてくれます。利用者も丁寧に記入しないと受付けてもらえないでの、一生懸命で受理された時は大喜びです。

（更生係長）

すぐにありのままに受け入れてくれます。交流がきっかけで福祉園に遊びに来たり、道で会うと挨拶を交わすことが増えました。ボランティアで継続する子もいます。

こうした活動を、特別なことではなく、日常的に日々地道に積み重ねてきた結果が、そして利用者が生き生きと活動している姿が、地域を変えたのだと思います。継続は力なりです。これからも利用者が安心して地域で生活できるよう、地域とのつながりを大切にして、相互理解をすすめていく活動を展開していくたいと思います。



## 『袖ヶ浦のびろ学園の今後』

川相豐子

障害者(児)の地域での自立生活を支援することを目的とした「障害者自立支援法」(身体障害・知的障害・精神障害に関する福祉サービスや公費負担医療は、個々の法律に基づいて提供されてきたが、これからは区市町村が主体となって、障害種別に関わり無く一元的に共通のサービスを提供する仕組みとなっている)が、平成十八年十月一日から全面施行となり、これまで「措置」であった袖ヶ浦のびる学園(第一種自閉症児施設)への入所も、「契約」方式に原則として変わりました。

また、法の着実な定着を図るために、三年後の見直しまでの措置として、「利用者負担の更なる軽減」「事業者に対する激変緩和措置」「新法への移行のための緊急的な経過措置」等からなる、改善策が講じられていますが、問題が山積

そうした中で、施設入所を閉鎖的にするのではなく、近隣地域や東京の事業所と連携を取り、短期での袖ヶ浦のびる学園の利用（週末の二泊三日など）等、自閉症児が安心して暮らせる場所を提供し、地域等で自閉症児（者）と暮らしているご家庭に対しても、支援して行こうと模索しています。

利用者の為の法整備が、利用者の経済的精神的負担にならないよう、今後とも、関係各所と連携を取りながら運営に当たらなくてはならないと改めて痛感しています。

しているのが現状です。

私たちの  
世界

## 袖ヶ浦からの発信

「学園の名物を目指し」

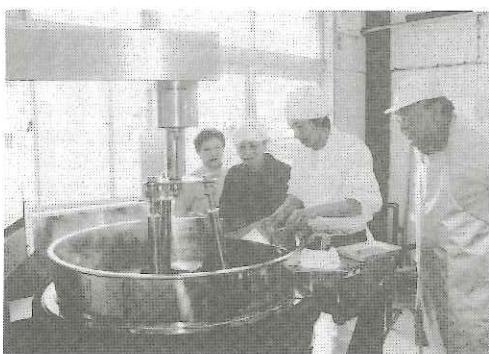
森祐介

この度、袖ヶ浦ひかりの学園の  
オンラインマナーである石原敦大さん  
（こぐま学園の利用者の保護者で、  
もいらっしゃいます）のご紹介で、  
千葉県市原市五井にある相川醤油  
で製造されている「潮騒の詩」  
（しおさいのうた）という「ふり  
かけ」の製造を、学園の作業の一  
環として行うことになりました。

（相川醤油は石原さんの奥様のご  
実家だそうです）作業を始めるに  
あたり、相川醤油と石原さんのご  
好意により、製造用の大釜をご寄  
付頂きました。

私が直接相川醤油の工場でそれらの製品の製造を習得しています。

平成十九年度より、いよいよ本格的に利用者を交えて製造を行っていきたいと思っているのですが、食品の製造ですので、お客様に信頼され安心して頂けるように衛生面には充分配慮すると共に、利用者にも無理なく製造に携わってもらえるよう作業工程を工夫し、適切な職員による支援を行う等、色々と考えながら行っていき、パンや産直野菜同様に、学園の名物になるよう頑張っていきたいと思っています。



### 相川さんの研修を受ける

# 嬉泉トピック

## 催し物のご案内

【アトリエ アウトス展】

日時 6月14日(木)～19日(火)  
10時～20時

会場 玉川高島屋SC本館R階

ルーフギャラリーにて

## ご 報 告

### ◆ 宇奈根なごやか園

「宇奈根なごやか園」の開設について  
当法人は世田谷区からの委託を  
受けた認可保育所「宇奈根なごや  
か園」を建設する運びとなりま  
した。現在の認可保育所「すこやか  
園」の姉妹園になります。規模は

0才児～5歳児・定員80名で平成  
19年7月開所の予定です。(住所。  
世田谷区宇奈根2-1-7) 世田谷  
区で平成19年度に新設される二園  
の内のひとつとなります。

宇奈根なごやか園は、これから  
予測される社会情勢の中であって  
家庭的な雰囲気をもつた保育園に

◆ ご寄附のお礼  
子どもの生活研究所 めばえ学

◆ 第29回嬉泉祭りバザーご報告  
去る3月11日(日)に、袖ヶ浦  
に於いて、第29回嬉泉祭りバザー  
を開催いたしました。皆様には、  
多大なるご協力を賜りましたこと、  
厚く御礼申し上げます。

◆ 宇奈根なごやか園の行事や  
を通じた交流、また知的障害児通  
園施設「めばえ学園」との交流保  
育などで、豊かな人間関係が経験で  
きるようになると配慮したいと考えます。

嬉泉の行事やすこやか園の行事  
を通じた交流、また知的障害児通  
園施設「めばえ学園」との交流保  
育などで、豊かな人間関係が経験で  
きるようとに配慮したいと考えます。

◆ 第29回嬉泉祭りバザーご報告  
2月17日、第11回研究集会を開催。  
テーマ「特別支援教育をめぐる  
連携」について。

基調講演「特別支援教育をめぐつ  
て～医療面からの連携を考える」  
順天堂大学医学部 佐藤泰三。  
特別講演「特別支援教育への転換」  
文部科学省特別支援教育課調査  
官 樋口一宗。

シンポジウム 国立特殊教育研究  
所理事長 小田豊、淡路こども園

園で頂いた寄付をご紹介させて頂  
きます。

● 平成18年11月30日に、第32回丸  
紅基金社会福祉助成金として、二  
百万円正に受領し、めばえ学園の  
通園バスを購入いたしました。

● 1月22日に、東京都信用組合協  
会より、感覚運動訓練教具の購入  
として、助成金五四五、七六五円  
を受領し、大型折りたたみトラン  
ポリン、ラビットトランポリン、  
スタッキング箱椅子を購入いたし  
ました。利用者の送迎、日々の療  
育の場面で使用しています。また、  
今回ご紹介させて頂いた他にも多  
くの方々から温かいご好意が寄せ  
られております。誌面をお借りし  
て感謝申し上げます。

(めばえ学園 飯塚)  
◆ 板橋区食品衛生優良施設表彰  
赤塚福祉園は、このたび板橋区に  
おける「食品衛生優良施設」とし  
て表彰を受けました。1月24日に  
区長賞贈呈式があり、今年度は一  
万二百五十ヶ所ほどの食品提供施  
設の中から五ヶ所の施設が選ばれ、  
石塚区長から表彰状と記念の立派  
な楯をいただきました。

(赤塚福祉園 友田)  
◆ 優良施設区長賞  
園長 岩崎隆彦、世田谷区子ども  
家庭支援課係長 大原隆徳、東京  
都発達障害者支援センター主任  
石橋悦子、新宿区天神小学校通級  
指導学級教諭 長谷川安佐子。  
なお 衆議院議員 福島豊氏、文  
部科学省特別支援教育課長 瀧本  
寛氏のご挨拶がありました。



相談申し込みの件数は増加の一途をたどり、またその内容は非常に多様化、複雑化し、その対応は非常に困難性を伴つてきています。具体的には、発達障害を持つ本人が直接申し込まれるケース（ご家族には内緒という場合が多い）や、青年前期の反社会的行動を伴うケース、中年男女のご本人達から切実な生活苦を訴えてこられるケース等です。子どもが発達障害と診断され、両親が勉強するうちに、ご自身や他のご家族も同様の問題を抱えていることに気づかれるというケースもあります。

また最近増えてきているのは、1歳半～2歳の幼児期の相談です。これは親や祖父母をはじめとする周囲の気づきによる場合が多く、発達障害についての知識が少しづづ

◎相談支援の実施状況

今年度後半の東京都発達障害者支援センターの活動の中から、相談支援の実施状況と、他機関との連携についてご報告いたします。

私たち

東京都発達障害者支援センター

つ抜かりを見せていることによるものと推察されます。

◎ 他機関との連携

(1) 医療機関との連携

主訴明確化等をはかった後に医療

主訴明確化等をはかった後に医療機関に紹介する。一方、医療機関からは、診断された後の具体的な生活面での相談を依頼されるといふ、相互の連携が徐々に増えてきています。

反社会的行動を伴うケースを医療機関に紹介する、逆に医療機関を退院した後の受け皿探しを、本センターが担当するといった場合もあります。

## ② 保健、福祉関係との連携

保健所や福祉施設からは対応困難な発達障害のケースについてのアドバイスや、医療機関の紹介を求められるケースが増えています。また発達障害に伴う就労困難か

#### ④ 就労支援機関との連携

④ 就労支援機関との連携  
最近、障害者職業センター、ハローワーク、しごとセンター、障害者就労支援センター、就業・生活支援センター等における、発達障害を持つ人への就労支援が活発になってきています。本センター

てこます。

本センターとしては発達障害に  
関わる正確な情報を提供すること  
や、発達障害があることによる生  
活上の困難等についての説明を行  
っています。

らくる生活上の困難や引きこもりに関して、本人の居住区の保健師さんに協力を依頼したり、その受け皿として福祉施設の利用を依頼し、その後も連携を図りながらフォロしていく、といったケースもあります。

③ 教育との連携

⑤ 司法関係（弁護士）

## 保護観察官との連携

特に青年期以降の人たちが、金・カードローン等の問題を抱える相談も入り、弁護士との連携が求められることが増えてきました。同時に弁護士の方からも、発達障害を持つと思われる人への対応について、本センターへ問い合わせてこられることも増えてきています。また、最近では青年前期の司法事例について、保護監察官からの相談ケースもあります。

本センターとしては発達障害に関する正確な情報を提供することや、発達障害があることによる生活上の困難等についての説明を行っています。

2007年3月

# ひかりのタイムス

独立第53号

『平成十八年十一月十五日水曜日  
から十七日金曜日まで二泊三日、  
グループホームの利用者と世話人  
六人で旅行に行つた事』

田中雅也

僕の希望で山陰の鳥取・島根に  
しました。山陰の鳥取・島根は初  
めてで、まっ暗な朝明け方出発が  
窮屈。飛行機とアクアラインのバ  
スは、どちらも乗ると早いけど、  
出発までが大変苦労がある。アク  
アラインのバスは乗るのは慣れて  
います。

米子空港も初めて。鳥取は、都  
内より人も車も出ている。少ない  
店やお家造りのけしきが古くなつ  
かしい。日本中どこでも変わらな  
いのは、人が増えてることで、ビ  
ルも増え、地上げ屋ブームみたい。  
初めの日、島根県のマンガ家みず  
きしげるロード記念館へ入った。  
みずきしげるは老人で生きていて、  
昔のアニメの「ゲゲゲの鬼太郎」

は、实物をアニメ化した。みずき  
しげるは、優しそうな老人男で、  
ゲゲゲの鬼太郎のアニメをビデオ  
化したのがあった。

次に島根県は出比園で、ここは  
植物園とお座敷の和食屋もある広  
い所である。ここで昼食を食べた。  
その後、小泉八雲作家記念館にも  
行つた。

松山城の中に入つて、見学して、  
登つたりした。

玉造温泉に入つて、玉造温泉の  
「山陰なまりは、都内で言うあり  
がとうはだんだん」と教えてもらつ  
た。山陰の人達は、関東東北名古  
屋の人間よりおちついて、優しそ  
うなのがわかつた。

おみやげは、お金がかかる。僕  
は、人づきあいがぎこちないから、  
やめようかと思つたけど、気が合  
う人がいるから、買うのは正解だ。  
次回は、おみやげを買う事にします。

一日目の松山城と日本海の灯台  
と騒いでたけど、全員無事に帰り  
ました。二日目は、日本海の石巻  
灯台に登りました。

出雲大社は、縁結びの神様。僕

の小学校一年生の時の「大國主と  
すくなひこな」このイメージが出  
雲大社にある。山陰は、何が名物  
かがわからなくて、行ってわかつ  
た。出雲そば、高足がに、梨、青  
りんごなのがわかつた。

次に足立美術館に行つた。この  
時、自由行動があつて、一日目二  
日目とも午後きつさ店がよかつた。

二日目、ひかりの学園に僕達  
た時、十年前にいた退職した職員  
と交流した。この彼女は、米子市  
役所へ行つたり、ある親子さん  
めんどうをみたり人生相談役をやつ  
ている。元気でした。

(グループホーム・春のひかり利用者)  
(グルーピング・春のひかり利用者)



〔松山城〕前にて記念撮影  
これが二泊三日の山陰の旅行で

した。

飛行機国内線にしてるのは、  
外国语は、トイレでお金チケット買  
う、テロ殺される、水が飲めない  
不自由があるし、電車は乗るのに  
時間がかかる。毎年国内線の飛行  
機面白いです。

「石巻灯台では、中国韓国は、見  
えない。国内のおきの島が見える  
事ある」とわかりました。  
お風呂は二日目米子のホテルよ  
り一日目の島根県の川湯温泉が良  
かった。次回は、沖縄もいいけど  
沖縄は、温泉がないので考えちゃ  
います。以上です。

(ご本人の了解を得て文章を編集し  
ました)  
(グループホーム・春のひかり利用者)